

8・6ヒロシマへ!

2017年8月1日
No.481

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

7・30国際連帯集会

510人で大成功!

斎藤郁真・全学連委員長発言

安倍政権打倒! 改憲阻止へ! ということで訴えます。安倍政権打倒の闘いは、今日の集会のメインテーマでもありますけれども国際連帯の闘いそのものです。

いま安倍政権のやっている政治とは、排外主義、愛国主義、そして戦争で矛盾を解決しよう、自国の体制を他の国に矛盾を押し付けることで維持しようという本当にふざけたものです。これに対して闘い抜く立場がなければ、とうぜん他の国の労働者や民衆と団結しようというのは信頼されません。

◆今夏秋、現状を変革する改憲阻止へ!

僕らは具体的に自分たちの現場で、一つ一つ様々な闘いを実際やっていますが、安倍政権打倒、そして安倍戦争政治の象徴である改憲を阻止するために、むしろ安倍政権打倒、改憲阻止の闘いを一つのきっかけにして職場の仲間とも団結して様々な議論をしていく。そういう事

をきっかけに力をつくりだして改憲を阻止しよう。夏秋の過程で共に闘おうと、私は強く訴えます。

いま安倍政権はまもなく倒れるんじゃないかという状況に突入しています。安倍政権の支持率は下がっている。安倍政権は信頼できない。これは50%を超えて安倍政権の不支持の理由になっていますが、じゃ僕らが反対してきた安倍政権の戦争政治について支持率が実際どれぐら



7・30国際連帯集会で改憲阻止決戦を訴える斎藤君

い下がっているのかと言え、実際問題ほとんど動いていないと報道されています。安倍首相は信頼を失ったけど、安倍政権がやろうとしている政治についてはある意味では継続している。この状況を打ち破らないかぎり、安倍政権が打倒されても、「別の顔の安倍首相」がでてくる。この負のスパイラルにつながるだけです。根本的に僕らは、現状を変革する立場で安倍政権打倒を改憲阻止の闘いにつなげ、戦争反対の常識をこの社会につくり出していく。

◆現場からの国際連帯闘争、改憲阻止の闘いを

私は改憲阻止の内容をもっともっと豊かに語っていく必要があるだろうと思います。改憲について、一番積極的に支持する世代は20~30代だというのはいろいろな世論調査ではっきりしています。これはなぜかと言うのは、私の感覚としてもよく分かるのですが、憲法というのは僕らの世代にとってはただの神話です。学校には学校のルールがある。大学には大学のルールが、職場に行けば職場のルールがある。憲法なんてどこにも存在しませんでした。それを建前にしたところで、誰も何も守っていきたくない。大学の中で、自分の地位を守りたければ、コミュ力が高いか、テストの成績が良いか、部活の成績が良いか。これらによって自分の地位を守る。これが職場や大学や学校で誰もが知っている現実で、職場に行けば会社にとって都合の良い人材であることが自分の雇用を守る、少なくともそう見えている具体的な条件でした。

憲法が入り込む余地はどこにも存在しなかった。ゆえに、僕らの世代にとって憲法とは神話で、そして安全保障政策という観点からいうならば、ベトナム反戦運動が盛り上がり、世界中の労働者の国際的な闘いでアメリカ帝国主義が追い詰められて敗北する。こういう時代を経験した世代はともかく、今の世代にとっては他国の労働者の顔が見えないということで、国際連帯が現状いったん途絶えてしまっている。そういう状況に対は、軍事に対しては軍事で、力に対しては力で対抗するしかない。こういう思考が出てくるのは当たり前です。中核派に出会わなければ、全学連に出会わなければ、私も安倍政権を支持する若者の一人であったらという自覚があります。だからこそ私たちは、改憲阻止を徹底した国際連帯闘争として、僕らがぶち当たっている矛盾に対して、具体的な闘いとして展開していく。これが一番重要な観点だと思います。

「健康で、文化的な、最低限度の生活」を憲法は保障すると言っています。そのための条件は何でしょうか？労働時間を8時間に制限すること。生きていけるだけの賃



金を勝ち取ること。これは労働運動の課題です。大学で学生が自由にピラをまき、自由に討論する。これは学生運動の課題です。軍事基地に怯え、その騒音に被害を受け、戦争によって作られた人間=軍人によって様々な矛盾にぶち当たる沖縄の現実、反戦運動、具体的に基地に対して反対する運動の問題です。憲法で言っている様々な建前は、人間の力で勝ち取るしかありません。それを真正面から訴え、挑戦してきたのは僕ら全学連です。私はその存在に非常に自信を持っています。

今こそ、資本主義が全世界的な体制として成立した約200年間のこの労働者の苦闘、何度も繰り返された負のスパイラル、このすべてを断ち切る時が来ています。もう一度国際連帯が世界中で求められ、新自由主義によって労働者はただ競争するだけでは自分の地位は守られない。この社会はウソばかりだ。そのすべてを引っくり返さなくてはならない。こういう思いが世界中で満ち溢れています。国際的な闘いと改憲阻止の闘い、そして安倍政権打倒の闘い。これを極めて具体的な問題として、僕らの現場から勝ち取って行きましょう。

◆京大生4人の放学処分=退学処分粉碎へ！

全学連はこの間、京都大学を先頭にして闘いを展開してきました。いま、京大の反戦ストライキの先頭に立った4人の仲間に対して放学処分、つまり退学処分がでました。今の大学が、今の「リベラル」と言われている表向きは憲法を守ろうと言っている連中がどれほどクソであるか！この事を私たちは改めて退学処分撤回の闘いの中から、全社会に対してこの社会の真実を暴露していく闘いを組織していきます。全学連大会の成功をもって、私たちの現場から一旦はどんなに小さくても不屈に真実を貫いていく。そういう闘いを作り上げていきます。

本日集まれたすべての皆さん。日本もまた世界の一つです。国際連帯とは私たちの現場のことです。徹底的に闘い抜いていきましょう！